



加茂小学校校報第〔17〕号

嬭 村尾 隆晃

か も だ い す き  
も り も り げ ん き  
の び の び や さ し い  
つ こ つ ま な ぶ

令和4年9月26日

# 加茂っ子



## 6年『平和学習』



◇今週末の30日（金）に6年生は、修学旅行で行けなかったヒロシマへ日帰りの「平和学習」に行きます。今から77年前の夏、どのような背景から、ヒロシマ、ナガサキに原子爆弾が落とされ、その後の後遺症による死も含めて50万人も尊い「いのち」が奪われたのか？「原爆投下があったから、戦争は終わった。とするトルーマン大統領（当時）の主張は正しいのか？」「武器も持たない無辜の民への核兵器使用を正当化できるような理由なんてあるのか？」「戦後77年、世界平和のためヒロシマ、ナガサキはどのような役割を果たしてきたのか？」「ヒロシマ・ナガサキがカタカナ表記される理由は？」を22日（木）の5・6校時、貴重な授業時間をいただいて、校長による事前平和学習として6年生と共に考えました。



1945年8月6日8：15ヒロシマに、同月9日11：02ナガサキに世界で初めて人間の上に、原子爆弾（核兵器）が投下されました。ヒロシマに投下された6日とナガサキに投下された9日をたすと終戦記念日の15日になります。そのことが、永井記念館の御影石に刻まれています。この原爆投下によりヒロシマ・ナガサキでは一瞬にして20万人を超えるかけがえのない「いのち」が奪われました。その時に使ったスライド（抜粋）を以下に載せます。

ヒロシマ そして ナガサキ から

加茂小学校 6年 『平和学習』

なまえ

2016年5月27日

バラク・オバマ大統領  
安倍晋三総理大臣（当時）  
河野 洋（81）  
熊倉 明（79）  
野々村

原爆資料館で観ることができよう

マンハッタン計画とは…？

タブレットを使って、各自で調べてみよう!!

- ? マンハッタン計画とルーズベルト大統領
- ? " アイシュタイン
- ? " オッペンハイマー
- ? " ナチスドイツ
- ? " アドルフ・ヒトラー

6+9=15?

B29エノラゲイ

原子爆弾 リトルボーイ

50万人以上の大切な「命」

16 原爆の子の像

平和記念公園

佐々木真子さん 偲ぶ同級生が

Youtube 【新刊】に込めた祈り



**ヒロシマ&ナガサキを唄おう!!**

- ?原爆許すまじ♪
- ?ヒロシマの有る国で♪
- ?広島<sup>むこ</sup>の歌 市民賞「ねがい」♪
- ?地球をあるきたい♪
- ?長崎の鐘?

9月30日 (金)

『平和学習』では...

自分自身の 眼で観て、  
耳で聴いて、肌で触れて、  
頭で学んで、  
心で感じてきてほしい

続きは、自分のタブレット (Youtube) で視聴してみてください。  
(時間23分)

## 『ヒロシマ』 『ナガサキ』 そして 『知覧』

さて、ヒロシマと県境を接することと、郷土が誇る永井隆博士ゆかりの地がナガサキであるということもあり、私たちは、原爆投下（ヒロシマ・ナガサキ）、終戦と連想します。一方で同じく悲しく惨い戦争の歴史があったことを忘れてはなりません。そのことについてお話ししたいと思います。

### 『原爆』そして『特攻』



～はじめに～

6年ほど前、鹿児島に行きました。その折に、長年の念願であった知覧の特攻平和会館を初めて訪れました。ロビーに入るや否や眼に飛び込んでくる大きな壁画、特攻によって若き命を奪われた若者がO型戦闘機から天女に抱かれて天に召されていく図です。

展示品の中で特に目と心を奪われたのは特攻隊員が記した多くの遺書、



まだ年端もゆかぬ多くの若者たちがこれだけの文章をこれだけの美しい文字でよく書いたものだなあと率直にそう思いました。その多くが悲しくも前向きを装った内容のものであり、明日をも知れぬ「死」への恐怖に揺れる心を必死に押さえながら、己の「死」をいかにして意味あることとして自らを納得させようか葛藤する悲しさ・切なさに溢れ、愛する者の幸せを願い、過去を、そして、家族に向け、自分自身の死を振り返らないでほしい、立ち止まらないでほしいといった内容のものでした。時間の許す限り記念館の展示品を目に焼き付けました。そして、あらためてこのような惨劇を二度と繰り返してはならない、決して忘れてはならないと強く思いました。ウクライナへのロシアの侵略を映像を通して目の当たりにした今年、我々大人は「いのち」について「平和」について、過去の我が国で起こった出来事を風化させることなく、子どもたちに伝えていかなければならないとただただ思うのです。

## “永遠の〇”と人権教育

今から7年前のゴールデンウィーク中に第一夜、第二夜、第三夜の三部構成で、テレビドラマ“永遠の〇”が放映されました。ご覧になった方もあろうかと思えます。主演は、向井 理さん（宮部久蔵 役）です。百田尚樹さん原作のミリオンセラー小説をドラマ化したものです。



この永遠の〇、映画化（映画での主演、宮部久蔵役は岡田准一さん）され劇場公開されたときにも、神風特別攻撃隊を賛美するものだ（私は、むしろ逆だと思いましたが…）などとして、賛否両論ありました。「観たということ自分の記憶から消し去ってしまいたい。」とのコメントを残した映画監督もあったほどです。それにも関わらず、多くの劇場が感動の涙に包まれた背景には、この作品が人々に訴える何かがあったからだと思えます。

私はこの時初めて「永遠の〇」を観ました。百田さんの著書も読んでいません。第一夜から第三夜まで6時間半の間に何度涙が溢れそうになったか分からないほどでした。

当時の日本軍の非人道的な人命軽視、そして、未来ある若者のかけがえのない『いのち』が次々と特攻によって散っていく残酷さ無情さ。その事実に向って異を唱える宮部少尉。



筑波の航空学校の教官として勤務していた時、学徒出陣の航空学生たちの命を守るために「不可」をつけ続けました。ある学生が、操縦技術もずいぶん上達したはずなのに何故不可をつけるのかと宮部に詰め寄る場面があります。そして、次のように話すシーンが印象的でした。（学生）「そんなに私たちの操縦は未熟なのですか？」（宮部）「私は、武田学生の操縦は、未熟だとは思っていません。全くだめだと思っています。実戦に出たら瞬く間に敵機によって打ち落とされてしまうということです。」～中略～「あなたたちは、

戦闘機なんかには搭乗すべき人ではない。あなたたちはもっともっと優れた、立派な仕事をすべき人です。あなたたちの命は未来の日本のためにあるのです。」と…まさに教育そのもの、同和教育がこれまで大切にしてきた進路保障そのものだと感じました。

宮部さんが教えてくれたこと。それは「どんな状況下でも1人の人間として当たり前

る」こと**の**力強さ・たくましさ・しなやかさです。宮部さんの信念「何があっても家族のもとに戻る。そのために必ず今日を生き延びる」という考え方は多くの人々が、「お国のために命を捧げる」という集団同調圧力に抗<sup>あらが</sup>うことのできなかつた太平洋戦争真只中の日本ではとても特殊で、かつ困難極まりないことだったはず。「帝国海軍一の臆病者」と揶揄された男は、実は自分の命を守るためにではなく、家族を守るために、そして未来の日本を支える若い「いのち」を守るために生き残ろうとしていた「勇氣ある一人の人間」だったのだと思いました。

戦後77年、平和な現代日本においては誰もがもつ「命を惜しむ（大切にする）」という当然の感覚を、戦時中という最もそうした感覚を口に出しづらい、そうした感覚をもつこと自体が罪と見なされる時代に、毅然<sup>きぜん</sup>としてもちつづけた宮部さんの生き方、人としての在り方に深い感銘を受けました。

周囲に何と言われても自分の信念に生きる、周りの集団同調圧力に決して屈しない。そんな崇高とも言える生き方こそ、人権教育そのものだと感じました。

この永遠の0という作品、観方は人それぞれだと思います。あくまでも私個人の感想です。

この6時間半にも及ぶ大作がYOUTUBEで配信されています。高学年の保護者の方は、お子さんと一緒にご覧になってみられてはいかがでしょうか。

## おめでとう!!



### 『第75回 科学作品展 雲南支部展』

◎特選	「カスミサンショウウオの観察」	6年	嘉本 麗央さん
○入選	「蒸発の研究」	4年	深田 暖人さん
○ //	「カナヘビの研究」	3年	嘉本 峯々さん
○ //	「たまねぎのかわのけんきゅう」	2年	光井 蒼さん
○ //	「花とみをつかって色水のじゅうけんきゅうをしたよ」	2年	錦織 柚乃さん
○ //	「レモンでんち」	2年	土江 泰雅さん
○ //	「とけるたまご」	2年	福島 玄士さん
○ //	「アカハライモリのけんきゅう」	2年	永瀬 恭介さん



### 『第18回 雲南市読書感想文コンクール』

☆最優秀賞	「おじいちゃんからの命のバトン」	5年	山村 彩夏さん
◎ 優秀賞	「「モモ」を読んで」	6年	舟木 佳穂さん
◎ //	「ためいき」	3年	諸遊明佳里さん
○ 優良賞	「ためいき図鑑」	4年	久家 蒼依さん
○ //	「きつねくんはやさしいな」	2年	長谷川千紘さん

## 教育実習の学生紹介



◇9月26日(月)から教育実習が始まりました。加茂小学校出身の二人の学生さんが、先生の卵として

本校で教育実習をすることは、教師の先輩として、うれしい限りです。

\*三島雅生(みしま まお)さん 5年1組で4週間  
・9月26日(月)～10月22日(土)



・私は栄町出身で、家は学校からすごく近いところにあります。今回の実習では、児童のみなさんや先生方から学ばせていただきたいです。若いので、休み時間には子どもたちとたくさん遊びたいと思っています。よろしくお願ひします。

います。よろしくお願ひします。

\*本田菜々花(ほんだ ななか)さん 3年1組で2週間  
・9月26日(月)～10月7日(金)



・私は南加茂出身です。3年間大阪で学童指導員を勤め、現在は、小学校の先生を目指しています。子どもたちのために精一杯がんばります。よろしくお願ひします。

しくお願ひします。